



徳成寺 寺誌おから片版 第205号 2024年1月



明けましておめでとうございます。住職の大山です。

昨年末の報恩講の折に、恒例の歳末たすけあいにご協力

賜り、誠にありがとうございました。おかげ様で、11,361円

集まりました。後日、NHK 高松放送局などを通じて国内と海外の

歳末たすけあいに半額ずつ募金して参りました。大変微々たる金額

ではありますが、毎年続けています。私の敬愛するリチャード・カールソン

氏は「小さな親切をしたところで何も変わらないじゃないか、という思いに

とらわれすぎると欲求不満になり、その無力感を口実にして何も行動しなくなって

しまう。だが、細心の注意をはらってなんらかの親切一何でもいい一を実践すれば、

与える喜びを感じるとともにこの地球をちょっぴり明るくするのに役立つことができる

」と仰っています。新年も小さなことの積み重ねで、大きなことを成し遂げて参りましょう。

-発行責任者-
住職
大山健児
坊守
大山ひとみ



大山超世の耳を澄ませば

お世話になっております、副住職です。

12月26日に娘が生まれました。名前は祥鶴(しょうか)とつけました。漢字はそれぞれ1文字ずつ妻と2人で選びました。私は冬生まれにちなみ「鶴」の字を選び、妻はおめでたい事を表す「祥」の字を選びました。名前をつけるにあたって私自身が俗名と法名も兼ねている事もあり、子どもの名前も頭に「釋」の一字に連なった時の自然さや、子どもから大人、やがてお年寄りになっていくわけですが、年齢に関わらず自然に聞こえる音であるようにと色々を考えました。ただ、考えすぎた結果、画数が多くなってしまいました。書道の授業やテストの時間、役所での手続きの際は少々厄介に思われるかもしれません。しかし、授かった命を大切にしたいという願いがこもった名前なので、願いに答える大切な存在に成長する事を切に願います。ご門徒の皆様もどうか娘の事を暖かい眼差しで見守っていただければと思います。よろしくお願いいたします。

